

令和6年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会では、令和3年10月に第4期「香川県教育基本計画」を策定し、「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり」の基本理念のもと、学校をはじめ家庭や地域と連携・協力しながら、生涯にわたる学びを支える多様な教育施策を展開しているところです。香川で育ったことが人生の確かな礎となり、子どもたちが自分の良さや可能性を見出し、夢と志を持って歩み続けられるよう努めてまいりました。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組みは23年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育現場の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

令和6年度の事業を振り返りますと、香川大学の先生方には、県教育委員会事務局各課主催の現職教員研修や学力向上モデル校事業、道德教育地域支援委託事業など、各種事業において、講師・助言者として専門的な視点からご指導・ご助言をいただきました。

また、連携事業である、公立学校での教育実習や、公立学校インターンシップの実施を通して、未来の教員の育成に力を注ぐとともに、教職大学院連携研修講座を実施し、現役の教員の資質・能力向上にも寄与していただきました。さらに、公立学校等の教育活動支援や、香川県学力等調査結果の分析においても、専門的な立場からご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

坂出高校「教育創造コース」においては、無事6期生を送り出すことができました。教育学部の教授等による出前講座やグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出小・中学校、幼稚園、特別支援学校における実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育活動にご理解をいただき、多大なるご支援を賜りました。本コースで学んだ1期生・2期生の中には、地元香川で教壇に立っている方もおり、それに続く方たちが、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育てていくことを期待しているところです。

香川県教育委員会では、平成30年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を目指すべき香川の教員像として掲げています。今後も、教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和7年3月

香川県教育委員会教育長

淀谷 圭三郎

## 国立大学の動向と地域との連携の重要性

日本を含む先進国の多くでは、少子高齢化がさらに進行しているようです。最近の新聞報道によると、2024年10月1日の外国人を含む日本の総人口は、前年から55万人減少し、1億2380万2千人となったそうです。日本人だけに限ると過去最大の89万人の減少で、この数は香川県の総人口（92万人）に近いものです。

国立大学が置かれている状況も年々厳しさを増しています。昨年6月には、国立大学協会が記者会見を開き、独法化以降の運営費交付金の減額と国の「選択と集中」政策による競争の激化、近年の諸物価の高騰により、自主財源を増やす努力をしてきたものの国立大学の財務状況が危機的状況にあり、国民に対し予算増額への「理解と協働」を訴える異例の声明を発しました。香川大学においても状況はまったく同じであり、学部運営費も年々削減されています。各部局とも、昨年度から今年度にかけて、これまでにない規模の減額がなされ、対応に苦慮しているところです。

そのような状況下、地方国立大学は、立地する地域の高等教育機関の要としての役割をさらに強化することが求められています。そこで重要視されているのが、地域の諸機関との連携です。教員養成を核とする教育学部にあっては、県・市町の教育委員会との連携強化が上げられます。香川大学教育学部と香川県教育委員会は、2002年に「連携協力に関する覚書」を締結し、以来23年に渡って、様々な分野において活発な連携協力体制を築いてきました。この間、国立大学の法人化（2004年）を経て、ミッションの再定義、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン策定が行われました。香川大学教育学部では、人間発達環境課程の募集停止による学校教育教員養成課程への一本化（2018年）、教育学研究科では教職大学院への特化（2020年）が行われました。さらに2016年の「国立教員養成系大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受け、教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、附属学校園の改革が迫られています。

2022年12月に中央教育審議会がまとめた答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」は、養成、採用、研修と教員に係る多方面にわたる改革を求めています。これに合わせて、香川大学と香川県教育委員会は、香川県の教員育成方針（育成指標）を共同で策定し、その内容を学部カリキュラムに反映させる努力を積み重ねてきました。教育学部の入試改革では、2024年度推薦入試から香川県教員希望枠を導入しました。同時に、香川県においては、2023年実施の教員採用試験から、本学を含む大学推薦枠が導入され、その枠が拡大されつつあります。教員研修に関しては、本学の教職大学院と香川県教育センターと間で連携協定を結び、一層力を入れることにしています。一例として、学校長との対話の中で新たに構築したシステムの学校現場への導入を図っています。今後とも、地元香川県の教育界を中心に、広く地域社会に貢献できる教育学部を目指していきたいと思えます。

令和7年3月

香川大学教育学部

平 篤志

# 目 次

## はじめに

国立大学の動向と地域との連携の重要性

香川大学教育学部長 平 篤 志

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 淀 谷 圭三郎

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

### 【概要編】

令和6年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧…………… 1

### 【資料編】

- [資料 1] 令和6年度公立学校インターンシップ実施要項…………… 9
- [資料 2] 教育実践集中講座…………… 11
- [資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として…………… 14
- [資料 4-1] 令和6年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… 18  
(高等学校教諭)
- [資料 4-2] 令和6年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… 19  
(特別支援学校教諭)
- [資料 5] 香川大学免許法認定公開講座(中二英語)…………… 20
- [資料 6-1] 令和6年度管理職候補者研修会…………… 21
- [資料 6-2] 教員研修連携プログラム…………… 22
- [資料 7-1] 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進…………… 24  
モデル校事業

[資料 7-2]	課題解決型学習実践モデル校事業	26
[資料 7-3]	国際理解教育推進モデル校事業	27
[資料 7-4]	国際理解教育推進モデル校事業	28
[資料 8]	香川県学力等調査結果分析検討会議	29
[資料 9]	第 23 回「未来からの留学生」をふりかえり	30
[資料 10]	全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事	31
[資料 11]	坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援	32
[資料 12]	教師のキャリアプランニング支援システム	43
[資料 13]	SDGs 教育プロジェクト	44

#### 【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	45
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	46

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会 (R7.2.3)</li> <li>○ 幹事会 (R7.1.23)</li> <li>○ 専門委員会 開催なし</li> </ul>	連携協議会開催 (R8.2 予定)  ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 令和5年度実績報告書作成	・令和6年度実績報告書作成	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和 6 年度実績	令和 7 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	○坂出市立坂出小学校 1名 ○高松市立協和中学校 1名 ○母校実習 7名 ・香川県（香川県立坂出高等学校 2名） （観音寺総合高等学校 1名） （香川県立聴覚支援学校 1名） ・兵庫県（高等学校 1名） ・岡山県（小学校 2名、高等学校 3名）	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修 ・ 対象者：45名 ・ 実施期間 令和7年1月～3月（5日程度）	・継続実施	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	○高度教職実践専攻における実習連携協力校 12校の連携協力校（高等学校3校、中学校3校、小学校6校）	・継続実施 44校園の連携協力校（県立特別支援学校2校、高等学校3校、中学校13校、小学校24校、幼稚園2園） ※新たに2校（小学校1校、中学校1校）追加予定。	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○教育実践集中講座の実施 ※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・退職校長（日下哲也） 主任指導主事（太田隆志、一田幸子） ・年間2期、1人20～25時間程度の講義 ○現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・継続実施	資料2
	○現職教員等3名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 倉野晴代、川東芳文、中名紀子	・継続実施	資料3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	○大学教員が公立学校現場で研修 ※R6年度についても実施せず。	・継続実施	

## 2 教員研修に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、 H28.11名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名、 R3.4名、R4.8名、R5.9名、R6.8名) ・教職大学院学校力開発コース 2名 ・教職大学院授業力開発コース 3名 ・教職大学院特別支援開発コース 3名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和7年度は7名の予定) ※7名の内訳(義務教育課6名、県立(特支)1名)	
②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月～9月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料4
③(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語を取得するための免許法認定講習を実施(6講座、7単位)	・令和6年度で終了予定	資料5
④指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○対象受講者がなかったため、未実施。	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として大学教員を派遣 ○令和6年度「小中教育指導研修会」の研修企画の指導・助言 ○教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・資質・能力を育む教科の授業づくり 19名 ・道徳科の授業づくり 43名 ・教育効果を高めるためのICT活用法 36名 ・授業における特別支援教育 51名 ・学校の危機管理研究I-① 3名 ・学校の危機管理研究I-② 3名	・継続実施  ・研修講師を派遣  ・継続実施  ・「資質・能力を育む教科の授業づくり」を「学習における子どもたちの認識や理解の仕方について」に変更	

<p>⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<p>○内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名、R2 1名、R3 1名、R4 1名 R5 1名、R6 2名)) ※R6は、義務1名、特支1名</p>	<p>・継続実施</p>	
<p>⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) 〔担当：県教委〕  〔担当：教育学部〕</p>	<p>○管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川 大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究 I」として実施(大学教員が担当)</p> <p>○学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日 56名(うち院生4名) 8月1日 55名(うち院生4名)</p> <p>○学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月7日 10名(うち院生4名) 9月14日 10名(うち院生4名)</p>	<p>・継続実施</p>	<p>資料6</p>
<p>⑧教職大学院科目等履修 制度 (義務教育課) 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○教員研修連携科目を履修する場合、事前に「教 職大学院科目等履修生」として申請・登録して 履修することにより、「教職大学院科目等履修 単位」として認定する。  ※上記⑦の受講者のうち、科目等履修生として 受講した者</p> <p>・学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日、8月1日とも 6名</p> <p>・学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月7日、14日とも 6名</p> <p>○「教職大学院科目等履修単位」を取得した者 が教職大学院へ入学した場合は、当該科目を取 得済として認定する。</p>	<p>・継続実施 ※引き続き、管理職 候補者及び「小 中教育指導研 修」受講者へ積 極的に働きかけ る</p>	

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実 現推進モデル校事業 ・ 課題解決型学習実践モデル校事業 ・ 国際理解教育推進モデル校 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	・ 継続実施 (事業内容につ ては検討中)	資料7
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習 状況調査」の結果分析に対する指導助言	・ 継続実施	資料8

#### 4 事業に関するもの

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 大学教員を講師として派遣 ・ 高松桜井高           ・ 高松商業高 ・ 高松西高	・ 継続実施	
②高大連携 (高校教育課) [担当：県教委]	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業：1学期26名、2学期18名 体験授業(夏休み)：24名	・ 継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 学生ボランティア派遣事業(登録者52名) ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に52名を派遣(R6.12.1現在)	・ 継続実施	
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 [担当：教育学部]	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催(県教育委員会後援) 約1000名が参加	・ 継続実施	資料9
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当：県教委]	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当：県教委]	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。	・ 継続実施	

<p>⑨特別支援教育総合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家チーム</li> <li>・巡回相談</li> <li>・就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会</li> </ul> <p>(特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学校のセンター的機能での教育相談や特別支援学校に在籍する幼児児童生徒に対する指導の困難事例についての指導助言</li> <li>○ 特別支援学校を訪問し、幼児児童生徒への指導内容・方法、学校の支援体制について指導助言</li> <li>○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	
<p>⑩全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業</p> <p>(特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育に関する、教員に必要な資質能力の指標作成や教員のキャリアに応じた研修内容等についての協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 10
<p>⑪令和5年度(独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業</p> <p>〔担当：教職大学院〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和6年度は3つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。道徳(2回)保健室(1回)授業づくり&amp;ICT(2回)、県教員センター指導主事等の協力を得た。道徳15分・30分研修デザイン支援シート集を3月に発行予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も多様な形で継続実施を検討。</li> </ul> <p>四国内の大学教員の協働で道徳教育研修 DVD を作成予定。</p>	
<p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業</p> <p>(高校教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の実施(9回)</li> <li>・ グループ研究指導(3回)及び研究室訪問受け入れ</li> <li>・ 大学訪問の受け入れ(1回)</li> </ul> </li> <li>○ 附属学校における活動(計11回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属坂出小学校(6回)</li> <li>・ 附属坂出中学校(4回)</li> <li>・ 附属坂出幼稚園(3回)</li> <li>・ 附属特別支援学校(1回)</li> </ul> </li> <li>○ 教育創造コースの教育内容に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul>	資料 11
<p>⑬教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)</p> <p>(県教育センター) 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川大学が文部科学省令和4年度第2次補正予算「教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)」を受託。開発テーマ「香川型研修奨励システムの構築ー教員と校長の1on1対話支援ツール」を共同開発</li> <li>○ 香川大学と県教育委員会は、システムの運用に係る覚書を締結し、システムの運用を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの運用を継続</li> </ul>	資料 12

## 5 その他

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 令和6年度新規派遣 ※ ( ) は合計数 ・ 附属高松小 4 (25) ・ 附属高松中 3 (19) ・ 附属坂出小 3 (18) ・ 附属坂出中 3 (19) ・ 附属特別支援学校 3 (13) ・ 附属幼稚園 1 (5) 計 16 名 (99 名)	・ 継続実施	

## 参 照

### 6. 香川大学の取組

項 目	令和6年度実績	令和7年度計画等	資 料
①SDGs 教育プロジェクト [担当：教育学部]	○附属学校と学部との共同研究  ○イベントの実施等 (主なもの) ・ KSDGs おもしろワクワクサイエンス展 (8月4-5日)・ブルネイ国の子どもたちと食文 化を考えよう！(8月5日)・日独 SDGs シンポジウム開催(10月18日)・「SDGs を 学問する」講演会(11月21日)  ・ 全学共通科目「SDGs 学入門」企画と運営・ 創発科学研究科共通科目「フィールドスタデ ィ」企画と運営	・ 継続実施	資料 13

資 料 編

## 令和 6 年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

令和 7 年 3 月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生が，4 月以降の教員としての生活に先立ち，教員の職務の実態に触れることによって，児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め，教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

令和 7 年 3 月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生

## 3. 参加人数

公立小学校	26名	公立中学校	15名		
公立高等学校	1名	公立特別支援学校	3名	計	45名

## 4. 実施時期・期間

令和 7 年 1 月下旬～令和 7 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

## 5. 研修学生・研修校・研修期間

別紙 参照

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
  - ※土日の学校行事・振替日については，研修校と学生が協議の上，決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

## (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導

「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A 4 判 1 枚程度），教務課学務係を通じて研修校  
香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

## (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教務課学務係を通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A 4 判 1 枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 公立学校インターンシップ 研修校一覧(R6)

No	研修校	研修期間	人数
1	坂出市立加茂小学校	2/17 (月) ~ 2/21 (金)	1名
2	高松市立花園小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	2名
3	高松市立木太小学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	2名
4	高松市立太田南小学校	2/10 (月) ~ 2/17 (月)	1名
5	高松市立川東小学校	3/3 (月) ~ 3/7 (金)	1名
6	丸亀市立飯山中学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	1名
7	高松市立国分寺南部小学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	1名
8	高松市立屋島中学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	1名
9	高松市立亀阜小学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	6名
10	東かがわ市立大内小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
11	丸亀市立垂水小学校	2/17 (月) ~ 2/21 (金)	1名
12	高松市立栗林小学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	2名
13	さぬき市立さぬき南小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
14	丸亀市立城南小学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	1名
15	高松市立檀紙小学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	2名
16	三豊市立財田小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
17	さぬき市立寒川小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
18	丸亀市飯山北小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
19	宇多津町立宇多津中学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	1名
20	さぬき市立さぬき南中学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
21	さぬき市立さぬき北小学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
22	高松市立牟礼北小学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	1名
23	高松市立勝賀中学校	2/17 (月) ~ 2/21 (金)	2名
24	観音寺市立大野原中学校	2/25 (火) ~ 3/3 (月)	1名
25	高松市立紫雲中学校	2/17 (月) ~ 2/21 (金)	3名
26	三木町立三木中学校	2/3 (月) ~ 2/7 (金)	1名
27	高松市立龍雲中学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
28	坂出市立坂出中学校	2/17 (月) ~ 2/21 (金)	1名
29	東かがわ市立大川中学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
30	香川県立中部支援学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	2名
31	香川県立香川東部支援学校	1/27 (月) ~ 1/31 (金)	1名
32	香川県立高松工芸高等学校	2/10 (月) ~ 2/17 (月)	1名

## 令和 6 年度 第 1 期教育実践集中講座

## 魅力のある職業 先生になろう

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。  
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 太田 隆志（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 一田 幸子（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 日下 哲也（公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 支部長）

## 【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月18日(土) (13:00~17:00)	621 講義室	<講義・演習> (太田・一田) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ①(太田)」 「教育法規とケース・スタディ②(一田)」	「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」の集中講義として行う。 (倉野・川東・中名)
5月20日(月) (13:00~14:30)	422 講義室	<講義・演習> (日下) 【生徒指導】 「生徒指導の実際について」	「生徒指導論(共)」の講義として行う。 (柘澤)
5月20日(月) (14:40~16:10)	415 講義室	<講義・演習> (一田) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(イ)(共)」の講義として行う。 (櫻井)
5月23日(木) (16:20~17:50)	611 講義室	<講義・演習> (一田・日下) 【教育実習事前指導】 「私の出会った教育実習生・教育実習に向けてのメッセージ」	「教育実践演習(教育実習事前指導)」の講義として行う。 (山岸)
6月1日(土) (13:00~17:00)	621 講義室	<講義・演習> (太田・一田) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ③(太田)」 「教育法規とケース・スタディ④(一田)」	「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」の集中講義として行う。 (倉野・川東・中名)
6月5日(水) (13:00~15:00)	415 講義室	<講義・演習> (太田) 【子ども理解】 「『子ども理解』と授業実践・附属学校参観の心がまえ」	「教育実践プレ演習」の講義として行う。 (松下)
6月17日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の講義として行う。 (柘澤)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL : 087-832-1683

# プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

- 【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。  
・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】客員教授 太田 隆志(香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)  
客員教授 一田 幸子(香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)  
客員教授 日下 哲也(公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 支部長)

## 【日程】

日時	場所	主な内容	備考
10月18日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<ミニ講義>(太田) 【教育課題の探究①】 「日本の学力問題」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
	421 講義室	<ミニ講義>(日下) 【教育課題の探究②】 「これからの道徳教育」	
11月7日(木) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(太田・一田) 【教育方法と実践】 「ICTを活用した授業づくり①」	「教育の方法と技術 (B)(口)(共)」の講義 として行う。 (松下)
11月11日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(太田) 【教育の最新事情】① 「教師に求められる力」	「教職研究Ⅱ」の講義と して行う。 (中名・倉野・川東)
11月18日(月) (13:00~14:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(一田) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(口)」の講 義として行う。 (櫻井)
11月20日(水) (13:00~16:30)	415 講義室	<講義・演習>(一田・日下) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」	「教育実践演習(教育実 習事後指導)」の講義と して行う。 (山岸)
11月22日(金) (8:50~12:00)	421 講義室	<講義・演習>(一田) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして～4月 からの心がまえ～」中学校・高等学校	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
11月25日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(一田) 【教育の最新事情】③ 「教育課程と学校評価」	「教職研究Ⅱ」の講義と して行う。 (中名・倉野・川東)

11月28日(木) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(太田) 【教育方法と実践】 「ICTを活用した授業づくり④」	「教育の方法と技術 (B)(口)(共)」の講義 として行う。 (松下)
11月28日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(一田) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ① 「校務分掌との関連を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行う。 (柘澤)
12月11日(水) (10:30~12:00)	331 講義室	<講義・演習>(日下) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 ～小学校での取組事例に学ぶ～」	「人権教育」の講義として 行う。 (櫻井)
12月16日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(口)」の講 義として行う。 (柘澤)
1月16日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(太田) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ② 「いじめ問題との関連を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行う。 (柘澤)
1月27日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【場面指導(ロールプレイ)】 「多様な対応力の向上を目指して」	「学級経営論(口)」の講 義として行う。 (柘澤)
1月27日(月) (18:00~19:30)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【教育の最新事情】④ 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職研究Ⅱ」の講義と して行う。 (中名・倉野・川東)
2月 3日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【場面指導(ロールプレイ)】 「多様な対応力の向上を目指して」	「学級経営論(口)」の講 義として行う。 (柘澤)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先

附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として  
～22年目の取組と今後の展望～

倉野晴代・川東芳文・中名紀子

## 1 今年度の取組の重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが、表1【4か年を見通した教職支援】である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

表1 【4か年を見通した教職支援】 交流人事教員が中心となる授業等  

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	学校理解		子ども理解		授業理解		教職理解	
授業	大学入門 ゼミ	教職概論 (イ)(ロ)	教育実践 プレ演習  教育学チ ュートリ アルⅠ  教育学演 習ⅠA  学校教育 課程論A	初等授業 研究  生活科授 業研究  教育学演 習ⅠB  学校教育 課程論B	教育実践 演習  教育学演 習ⅡA  教育学チ ュートリ アルⅡ	教職研究 Ⅱ  教育学演 習ⅡB	授業実践 論  教育学演 習ⅢA  教職研究 Ⅰ(教育法 規入門)	教職実践 演習  教育学演 習ⅢB
就職 セミナー				就職ガイ ダンス		就職ガイ ダンス  筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前 セミナー  公立校イン ターンシ ップガイ ダンス
その他	教育相談	採用試験 説明会		採用試験 説明会		教職自主 サークル 採用試験 説明会	教職自主 サークル 採用試験 説明会	(教採支援)

## (1) 学校現場に即した授業の充実

## ①「授業実践論」 交流人事教員担当

学生は、基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。授業で、模擬面接・集団活動も行い、自他で考えを交流することを通して、教育への見方・考え方を深めることを大切にしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、個人面接、集団討論・集団活動等の指導に関わることができるようにした。このことにより、教育学部の全教職員で4年生の教職への道を支援する体制を整えることができている。

## ②「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」交流人事教員担当

教員を目指すほとんどの4年生が受講しており、基本的な教育法規（教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育公務員特例法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができている。

## ③「教職実践演習」(4年生後期) 倉野・川東

教職の探究をねらいとし、4年生の学びの総括となる授業で、教育課題の探究をはじめ、理論と教育現場をつなぐ役割を担っている。倉野と川東は、学級経営と生徒指導について担当し、理解をより深めるため、学校園の現状をもとに幼児・児童・生徒への具体的指導・支援の内容と方法等について演習を行った。学生の活発な意見交流のもと、教職への意識向上にもつながっている。

#### ④「教職研究Ⅱ」（後期）交流人事教員担当

教職をめざす自覚の高まりを支えることをねらいに授業を行っている。令和5年度から、次年度以降の教員採用試験で3年生が受験可能な自治体への対応として、2年生の希望者も受け入れて実施し始めた。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら教育課題をキーにさまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践について学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ること、4年生から今年の教員採用試験に向けての助言を受けることは、これから教員をめざす学生にとって、教職への意欲を高め、見通しをもって取り組む契機となっている。

#### ⑤「生活科授業研究」（後期）倉野・中名

2、3年生対象に「生活科授業研究」を幼小接続、生活科の見方・考え方を踏まえて、学生が実践的活動をもとに子どもの学びについて考える・気付く経験を重ねることをねらいに進めている。

#### ⑥「教育実践演習」（3年前期・後期一部）倉野・川東

附属学校園で教育実習を行う3年生に対する事前・事後指導に協力している。特に事前指導の講話や演習等においては、学生が教育実習に臨むにあたり、実習の心構えを意識するとともに、具体的なイメージをもつことによって不安を和らげ、期待を高めることができるよう努めている。

#### ⑦教職大学院での授業 中名

表1の授業以外に、教職大学院において、中名が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実際」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質的評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れるなど、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

以上のように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

### (2) 学生への個別指導（演習ゼミ）

倉野、川東は、教育領域の他教員とも連携し、「教育学演習Ⅰ」において、教育領域2年生対象に教育課題をテーマに演習形式で授業を行っている。「教育学演習Ⅱ」で3年生6名、「教育学演習Ⅲ」で4年生4名を担当し、卒業論文に向けて課題追究への支援を行っている。特に4年次には研究テーマに即して、国公立小学校での授業観察、教員へのアンケートやインタビュー調査等、実地調査をもとに理論と実践を絡めながら追究することをめざし取り組んできた。学生は、教育や教職への関心を高め、子どもを見つめる心と目を育み、実践の力量形成の基礎を培ってきている。

また、中名は「教職実践研究」として、本年度は、院生2名を副担当として、主担当と連携し、研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週1日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の融合」の実現に努めている。

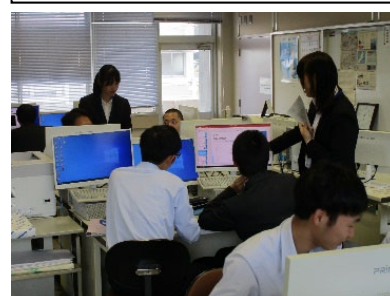
### (3) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外のつながりを図ってきた。県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。

#### ①高大接続推進事業

令和3年度から「総合的な探究の時間」の分野を中心に、高大接続推進を目的とした高校との連携に取り組み、派遣依頼のあった高校へ、各校の実情に合わせて学生や教員を派遣している。今年度は、学生を研究アドバイザーとして、高松西高校と高松桜井高校に派遣し、高校生に対して指導助言を行った。（2月には、坂出高校の生徒にも、大学訪問に合わせて学生が指導助言を行う予定である。）また、教員を研究発表会の講師として、坂出高校と高松西高校に派遣した。この

学生による課題研究の指導の様子



他、土曜日等に自主学習の支援を行うチューターとして、高松東高校や高松北中学校等にも学生を派遣した。高校生の探究的な学びや進路意識の向上に資するとともに、学生にとっても、子どもとのかわり方を学ぶよい機会となっている。今後も高校との連携を継続し、効果的な取組を模索したい。

## ②各学校との連携

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、実施に向けて連絡・調整を行った。「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生との交流学习を実施した。11月に香川大学に招待し、構内の自然散策をしながら学ぶ「あきとなかよし」の授業を学生主体で計画し展開した。実際に見童とかかわり合うことで、思いや気付きに触れることができるため、学生自身が見童や活動について、新たな発見や課題を見出すことができ、今後の学びにつながるものであった。

「あきとなかよし」  
交流の様子



## (4) 教員採用選考試験合格へ向けてのサポート ～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別指導・相談」（教員の空き時間等活用）等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実践について助言を行っている。さらに、7月末には二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職研究Ⅱ」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。

教職自主サークル  
「先輩教員からの模擬授業指導」



また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。

## (5) 大学行事を通しての学生支援

例年10月に行われる「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」では、「おはなしの国2024」の講座において、学生と子どもたちがふれ合うことができるよう、学生への支援を行った。教育実

習等とはまた違った環境の中で幅広い年齢層の子どもたちとふれ合い、創作劇の発表や音楽に合わせた遊びを通して、子どもたちとのかわり方を学ぶよい機会となった。教育領域2年生が中心となって企画運営に携わり、学生にとって、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める活動ともなった。

未来からの留学生「おはなしの国2024」



## 2 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院担当1名）での取組が始まり10年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目指している。平成29年度から構築されたシステム【表1】を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組むとともに、早期化・多様化が進む教員採用試験の新たな動向に対応できる体制づくりに向けて試行しているところである。

また、学校現場では、ICT環境が整備され、それを積極的に活用した学習活動の充実が推進されている。そのため、交流人事教員も、授業等においてICTを効果的に活用する技能の向上に努めている。

今、学校が対応すべき課題が複雑化・困難化する中で、教員の総合的な資質能力の向上が求められている。そのような状況においては、交流人事教員がそれぞれの教職経験を十分に生かしながら、教職の魅力ややりがいについて学生に伝えることを通して、教員としての心構えを育み、教職の技能を高められるよう支援していくことがますます重要になると考えている。交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後とも全力を挙げて取り組んでいく所存である。

## 3 22年目の活動内容

### 学内における活動

#### (1) 委員会等

- 〔倉野〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー
- 〔川東〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー
- 〔中名〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

#### (2) 授業等

- 〔倉野〕 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A・B、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査、全学共通「越境する学問」(他学部教員と連携)
- 〔川東〕 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論B、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査
- 〔中名〕 【教職大学院】 指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教材開発の理論と実践、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム
- 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、学校教育課程論A、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル

#### (3) その他

- 〔倉野〕 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事
- 〔川東〕 「教職実践演習」WG、卒業前対策講座担当、高大接続推進事業担当
- 〔中名〕 卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

### 学外における社会的活動

- 〔倉野〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県がん教育推進委員(協議会、研究校参観) 大学入学共通テスト試験(監督)(2025.1)
- 〔川東〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師
- 〔中名〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、高松市保育研究会実践保育研修(講話等)(2024.11) 大学入学共通テスト試験(監督)(2025.1)

## 令和6年度 香川県教育委員会免許法認定講習(高等学校教諭)

## 1 目的

高等学校等に勤務する教員に対し、教育職員免許状取得に必要な単位を修得させ、あわせて資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期日

科目区分	開設科目	受講者数	期日
教科に関する 科目：農業	動物生産の科学	23名	8月29日(木)・8月30日(金)

## 3 日程

時間	8:30	8:50	9:00	10:30	10:50	12:20	13:00	14:30	14:50	16:20
第1日	受付(入室)	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付(入室)	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

## 4 講師(香川大学)

	期日	科目	講師
講義	8/29・30	動物生産の科学	准教授 松本 由樹

## 資料 4 - 2

### 令和6年度 香川県教育委員会免許法認定講習（特別支援学校教諭）

#### 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

#### 2 開設科目、受講人員、期日

	実施形態	開設科目	受講者数	期日
講義Ⅰ	オンライン型	聴覚障害児の心理・生理及び病理	71名	8月5日(月)・6日(火)
講義Ⅱ	集合型	視覚障害児の教育課程及び指導法	79名	8月19日(月)・20日(火)
講義Ⅲ	オンライン型	知的障害児の教育総論	97名	8月31日(土)・9月1日(日)
講義Ⅳ	集合型	重複・発達障害児の教育総論	74名	9月14日(土)・15日(日)

#### 3 日程（全講義同一日程）

時間	8:30	8:50	9:10	10:40	10:55	12:25	13:35	15:05	15:20	16:50
第1日	受付(入室)	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付(入室)	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

#### 4 講師（香川大学）

	期日	科目	講師
講義Ⅳ	9/14・15	重複・発達障害児の教育総論	准教授 加藤 隆芳(9/14) 教授 恵羅 修吉(9/15)

## 香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）令和6年度

- ・ 文部科学省委託事業(令和6年度小学校外国語教科化に対応した外部人材活用促進等のための講習の実施事業)として6講座をオンラインと対面で開設した。

## (1) 実施状況（講座別受講者数）

全体

講座名	単位数	形態	実施日	受講者所属都道府県																	
				香川県	北海道	岩手県	埼玉県	千葉県	東京都	新潟県	石川県	岐阜県	静岡県	愛知県	大阪府	兵庫県	広島県	愛媛県	福岡県	熊本県	計
生徒指導論・進路指導論	1	対面	8/11,8/12	2			1													3	
英語圏文学史概論	1	対面	9/7,9/8	2																2	
		オンライン		2	3	1	1		2				1		1			2	1	14	
英文法概論	1	対面	9/14,9/15	2										1		1				4	
英語科教育法概説	2	対面	9/14,9/15, 9/21,9/22	3					1											4	
英会話基礎	1	対面	12/7,12/8	2																2	
		オンライン		5	3	1	1	1		1		1	1		1	1			2	1	19
異文化理解	1	対面	1/11,1/12	2																2	
		オンライン		2	4	1	1	2	1		1	1		1		3		1	2	1	21
計				22	10	3	4	3	4	1	1	2	1	2	2	5	1	1	6	3	71

## (2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県																	
	香川県	北海道	岩手県	埼玉県	千葉県	東京都	新潟県	石川県	岐阜県	静岡県	愛知県	大阪府	兵庫県	広島県	愛媛県	福岡県	熊本県	計
5単位	2																	2
4単位	1			1														2
3単位	2	1				1							1			2	1	8
2単位	2	2	1			1			1		1							8
1単位	1	3			3		1	1		1		2	2	1	1			16
計	8	6	1	1	3	2	1	1	1	1	1	2	3	1	1	2	1	36

# 資料6-1

## 令和6年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭用

◎印（第1回、第8回研修）は全員参加

2年目以上の者は、第2回～第7回研修から2回以上選択（第1回研修会で参加希望をとる）

回	期日	指標	研修内容		会場	講師
			講義等	法規演習		
1	5月 23日 (木)	管 Aa1 管 Ac1 管 Bb1	◎義務教育課長講話 ◎オリエンテーション ◎香川の教育課題 (保健体育、特別支援教育、人権・同和教育、学習指導、生徒指導等)	◎教育法規の概要	県教育センター (大研)	義務教育課長 事務局職員
2	6月 14日 (金)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ac1	管理職の職務(中学校長) 教頭の役割と実務(教頭) (以上オンライン中継) 市町教委教育長講話 学校と市町教育委員会 市町教委と教育事務所	教育法規の基礎・基本	県教育センター (大研・5研)	市町教委教育長 市町教委 事務局職員 事務局職員 現職校長・教頭
3	7月 24日 (水)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ca1	管理職の職務(小学校長) 教頭の役割と実務(教頭) (以上オンライン中継) 公務災害	服務 児童生徒の就学 教育課程	県教育センター (大研・7研)	現職校長・教頭 事務局職員
4	7月 31日 (水)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導	講義に法規内容 含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
5	8月 1日 (木)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働	講義に法規内容 含む	各学校または、 県教育センター (ICT)	香川大学
6	9月 5日 (木)	管 Bc1 管 Cc1	目標申告・評価制度 人事評価制度	学校保健・安全	県教育センター (大研・5研)	現職校長 事務局職員
7	10月 11日 (金)	管 Ab1 ア 管 Bc1 管 Cb1 管 Cc1 イ	特別支援教育力の向上 カリキュラム・マネジメント 学校組織マネジメント	分限・懲戒 児童生徒の懲戒 ハラスメント	県教育センター (大研・5研)	特別支援教育課 外部講師 事務局職員
8	1月 14日 (火)	管 Aa1 管 Ca1 管 Bc1	◎教育長講話 ◎学校事故への対応 ◎学校事務 ◎研修受講奨励 ◎1年間のまとめ	講義に法規内容 含む	県教育センター (大研)	教育長 事務局職員

※第1回～第8回：全日研修 9:00～16:25 受付 8:45～9:00

※県教育センター：高松市郷東町 587-1（第4回、第5回は、オンライン研修のため、各学校での受講可）

※持参物：教育小六法、香川県教育関係職員事務必携、各市町教育委員会の管理運営規則及び含む規則

「信頼される教師を目指して」、「わいせつセクハラ事例集」「個人情報の適切な取り扱いと流出の未然防止に向けて」

※第4回、第5回は、教職大学院連携研修 405、406「学校の危機管理研究Ⅰ-①、②」として実施。

この2回の講義内容の個別事例研究を、香川大学教職大学院教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」として、9月7日（土）、9月14日（土）に開講する。参加は自由。香川大学HPより各自申し込む。

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの実施について  
～教職大学院連携研修と教員研修連携科目の構築～

学校力開発コース

### 1. プログラム実施の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴う多様化・複雑化した問題や課題が生起しており、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るため、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

そこで教職大学院ではスクールリーダーの育成に重点的に取り組むことを重点課題とし、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化することにより、教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

### 2. 現状

香川大学教職大学院は、平成 31 年度から 2 年間独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」について検討を行い、連携・協働事業として次の 3 点が実現している。

- ① 香川県教育センターの教員研修体系に「教職大学院連携研修」<sup>※1</sup>が位置付けられている。  
※1 「教職大学院連携研修」は、教職大学院科目の一部を教員研修として提供
  - ・教職大学院連携研修講座 「資質・能力を育む教科の授業づくり」
  - 「道徳科の授業づくり」
  - 「教育効果を高めるための ICT 活用法」 R5 より名称変更
  - 「授業における特別支援教育」
  - 「学校の危機管理研究Ⅰ—①」 「学校の危機管理研究Ⅰ—②」
- ② 教職大学院学校力開発コース科目として、スクールリーダーの養成を目指すことを目的として教員研修との連携を図った「教員研修連携科目」<sup>※2</sup>を開設している。  
※2 「学校の危機管理研究Ⅰ」集中：2 日間（管理職候補者研修に含む）  
「学校の危機管理研究Ⅱ」集中：2 日間（土曜日開催・希望履修）  
なお、「学校の危機管理研究Ⅱ」を希望履修した管理職候補者が 3 年以内に教頭として徴用された場合は、「新任教頭研修」の当該内容に係る研修を免除することができる。
- ③ 研修形態としては、オンラインで受講する同期型遠隔研修<sup>※3</sup>を実施した。  
※3 「資質・能力を育む教科の授業づくり」「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」、年度当初から実施を予定。

### 3. 課題と本年度の取組

#### (1) 課題

- ① スクールリーダー、とりわけ学校管理職を志望する教員の減少に伴い組織的・計画的に人材開発を行う必要がある。
- ② 教員の働き方改革が進められている中「学び続ける教員像」の具現化を図るため、教員が「学びたい時に学べる」研修環境を整備する観点から教員研修における「研修受講履歴記録」の在り方、「ラーニングポイント制」の導入及び教員研修体系の多様化を検討する必要がある。
- ③ 香川県教員等人材育成方針及び育成指標の改正されており、その趣旨を踏まえて「教職大学院連携研修」及び「教員研修連携科目」について内容の再検討が必要である。
- ④ 上記①から③について具体的な方策や作業工程などを検討し、教員研修に係る教職大学院と香川県教育委員会・香川県教育センターとの一層の連携協力を図るため設置した「香川大学教職大学院教員研修高度化推進室」の活動を充実させる必要がある。

## (2) 本年度の取組

検討にあたっては、「教員研修システム共同開発委員会」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会・高松市総合教育センターの各担当により協議を行っている。

### 資料1. 教員研修システム共同開発委員会の開催状況

回	開催日	検討内容
第1回	令和6年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る連携・協働の実績について</li> <li>○教員研修に係る令和6年度の取組について</li> <li>○今年度の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職大学院と連携した教員研修の在り方 (教職大学院連携研修、教員研修連携科目)</li> <li>・香川県教職員人材育成指標に基づく改正指標を踏まえた取組</li> <li>・香川型研修奨励システムについて</li> </ul> </li> </ul>
第2回	令和6年7月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組について</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」について (教職大学院)</li> <li>○香川型研修奨励システムについて</li> </ul>
第3回	令和6年10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組について</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」の受講状況等について (教職大学院)</li> <li>○香川型研修奨励システムについて</li> </ul>
第4回	令和6年12月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員研修に係る教育委員会の取組</li> <li>○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター)</li> <li>○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」について (教職大学院)</li> <li>○香川型研修奨励システムについて</li> </ul>
第5回	令和7年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度教員研修に係る連携・協働について</li> <li>○教員等人材育成指標との関連表に基づく研修内容の検討について</li> <li>○香川型研修奨励システムについて</li> </ul>
第6回	令和7年3月11日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度教員研修に係る連携・協働について</li> <li>○香川型研修奨励システムについて</li> </ul>

### 資料2. 令和7年度教職大学院連携研修及び教員研修連携科目実施予定

教職大学院連携研修講座名	指標	実施日	研修形態	定員	会場
401 子ども理解と学習指導 ～子供を主語にした学びの在り方～ (R7より名称変更)	Bb	7月30日(水)	集合型	20人	香大
402 道徳科の授業づくり	Bbイ	7月29日(火)	集合型	50人	県センター
403 教育効果を高めるためのICT活用法	Bbイ	7月31日(木)	集合型	36人	県センター
404 授業における特別支援教育	Baア	7月30日(水)	集合型	50人	香大
405 学校の危機管理研究Ⅰ―①	Cc	7月31日(木)	双方向配信型	120人	
406 学校の危機管理研究Ⅰ―②	Cc	8月1日(金)	双方向配信型	120人	

教員研修連携科目		実施日	研修形態	定員	
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―①	Cc	9月6日(土)	双方向配信型	100人	
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―②	Cc	9月13日(土)	双方向配信型	100人	

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

### 1 趣旨について

児童生徒の資質・能力育成のため、学校における授業づくりに当たっては、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが求められる。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

### 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を4校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) モデル校は、香川県教育センターが実施する調査研究事業に協力する。
- (3) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (4) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツ提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (6) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (7) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (8) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
坂出市立松山小学校	令和6年6月5日(水) 13:40～16:10	教授 松島充	国語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
綾川町立綾川中学校	令和6年6月10日(月) 14:30～16:30	講師 浅井哲司	国語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
高松市立円座小学校	令和6年7月26日(金) 9:00～11:00	教授 松島充	算数科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
坂出市立松山小学校	令和6年8月22日(木) 9:30～11:30	教授 松島充	算数科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
綾川町立綾川中学校	令和6年8月23日(金) 10:30～11:30	准教授 神野幸隆	「単元内自由進度学習」等についての講話
綾川町立綾川中学校	令和6年9月5日(木) 14:30～16:30	教授 中住幸治	英語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
高松市立円座小学校	令和6年9月19日(木) 15:40～16:30	教授 松島充	算数科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
坂出市立松山小学校	令和6年9月25日(水) 13:40～16:10	教授 松島充	算数科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言

※ モデル校の研究内容

■ 坂出市立松山小学校

研究主題 自他を認め、多様な他者と共に高め合う児童の育成  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

■ 綾川町立綾川中学校

研究主題 ともに楽しむ授業づくり  
～「分かる」「できる」「楽しい」全員参加の授業を目指して～

■ 高松市立円座小学校

研究主題 問いの解決に向けて、共に考えを創り上げていく子どもの育成  
～悩み、ひらめき、学びを楽しむ授業づくり～

## 課題解決型学習実践モデル校

## 1 趣旨について

主権者として必要な資質・能力を育む教育を推進するため、地域の具体的な課題の解決に取り組んだり、社会を構成する自立した主体となるために必要な知識について理解を深め、社会的な課題について探究したりするなど、実社会との接点を重視した課題解決型プログラムの実施が求められている。本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

## 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を1校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (3) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツの提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

## 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立香川第一中学校	令和6年7月8日(月) 15:00～16:00	准教授 岡田涼	特別活動の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
	令和6年9月27日(金) 13:45～16:00		
	令和6年11月14日(木) 13:45～16:00		

## ※ モデル校の研究内容

## ■ 高松市立香川第一中学校

研究主題 自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり  
 —特別活動を軸にした学力向上のための基盤づくりをめざして—

## 国際理解教育推進モデル校

## 1 趣旨について

県内で学ぶ外国人児童生徒の人数の増加、国籍・地域の多様化が進んだり、グローバル化や情報化が進展したりすることより、子供たちの身近な生活が徐々に多文化共生社会へと変容してきている。そのような中、各教科等で培った力を活用しながら、語学力やコミュニケーション能力、情報活用能力を育てるとともに、国際的な視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養い、グローバルな感覚と素養をもった人材を育成することが求められている。本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力向上に資する。

## 2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を1校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (3) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツの提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

## 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
まんのう町立 満濃中学校	令和6年6月20日(木) 14:00~15:00	准教授 清水顕人	道徳の内容項目「国際理解、国際貢献」における指導の手立てについて講義
	令和6年8月20日(火) 14:00~15:00	准教授 神野幸隆	探究的な見方・考え方を育成するためのポイントについて講義
	令和6年9月11日(水) 13:30~16:30	准教授 神野幸隆	社会科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
		教授 中住幸治	英語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
		准教授 吉川暢子	美術科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
	令和6年9月12日(木) 8:30~10:20	准教授 清水顕人	国際社会においてこれからの日本人に期待することについて講話

## ※ モデル校の研究内容

## ■ まんのう町立満濃中学校

研究主題 まんのう町の誇りや外国(人)への関心を持ち、広い視野で異文化を理解するとともに、国際社会に生きる人間として望ましい態度や能力を育てる。

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園・認定こども園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和 2 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

No.	氏名	役職・分野
1	片岡 元子	香川大学教育学部教授・幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部教授・幼児教育
3	松井 剛太	香川大学教育学部准教授・幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授・幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授・理科教育

- (2) 県教育委員会指導主事  
 (3) かがわ幼児教育支援センター幼児教育専門員

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（令和 6 年度：3 市町 4 園）

	園 名	訪問日	研修内容	支援員
1	三木町立白山幼稚園	令和 6 年 7 月 2 日(火)	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続～幼児教育香川県研究協議会提案発表に向けた取組みから～	金子之史先生
2	観音寺市立 観音寺中央幼稚園	令和 6 年 10 月 16 日(水)	子どもの主体性と保育者の意図をバランスよく絡み合わせた環境づくり～共に楽しむ子どもの姿とは～	松本博雄先生
3	丸亀市立郡家こども園	令和 6 年 10 月 23 日(水)	振り返りを通して、今日から明日につながる保育へ～子どもの思いや育ちを多面的に捉える～	金子之史先生
4	観音寺市立豊浜こども園	令和 6 年 11 月 1 日(金)	新設園として、今ある環境をどのように生かしていくか～職員連携を深める園内研修の工夫～	吉川暢子先生

## 香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科・数学科）及び質問項目の内容検討

## 1 委 員

No.	氏名	役職	分野/領域
1	佐藤 明宏	香川大学教育学部特命教授	
2	松島 充	香川大学教育学部教授	教科教育分野 数学領域
3	岡田 涼	香川大学教育学部准教授	教育課題研究分野 心理領域
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授	経済・政策領域 経済・政策分析コース

## 2 分析検討会議

日 時	主な内容
令和6年 8月23日（金）	○ 令和6年度全国学力・学習状況調査の報告書についての分析検討
令和7年 1月10日（金）	○ 令和6年度香川県学習状況調査の報告書についての分析検討

## 第 23 回 「未来からの留学生」をふりかえり

実行委員長 吉川 暢子

第 23 回未来からの留学生を令和 6 年 10 月 13 日（日）に実施致しました。

事前予約では、多くの申し込みをいただき、その中から 約 520 名のみなさまに講座  
当選のメールをお送りさせていただきました。当日は講座に参加されるお子様だけでな  
く保護者やきょうだいのみなさまなど合わせて約 1000 名の地域の方にご参加いただき  
ました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、  
本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、教育学部 2 年生の学生が主体と  
なり活動の企画・運営を通じて、子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっており  
ます。第 23 回未来からの留学生では事前の完全予約制として、午後からの開催として  
います。学生が所属する各領域から合計で 33 講座が展開されました。一人でも多くの  
子どもたちが参加できるように昨年度よりも 5 講座を増やしました。また、当選された  
方ならどなたでも参加できる自由講座も 3 講座、新規開講しました。

特に本年度、開講された自由講座の中にある「Zutt Mott ふるさと」は香川県教育委員  
会事務局義務教育課の協力のもと開講され、たくさんのお子もたちがかるたやふるさと  
を知るクイズなどを楽しみました。

各領域の学生からの報告書には、企画・実践・振り返りを通じた学びの成果や、子ど  
もとのかかわり方への気づきについての学生の記述が多数見られました。これらの記述  
から、本事業における学生の成長を実感しております。

最後になりましたが、本事業は香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学  
部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本  
年度の活動の実施に関しまして多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたしま  
す。





# 資料 1 1

令和6年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について  
月日の欄の※印は別添資料あり

## 1. 大学教員による指導等

### (1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	5月31日	3年生	野崎武司 先生	主体的・対話的に学ぶということ
2	6月7日	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育—遊んで大きく育つ
3	9月13日	1年生	清水顕人 先生	道德教育について
4	9月20日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
5	9月27日	3年生	山神眞一 先生	コミュニケーション力を高めるために
6	10月25日	1年生	宮前淳子 先生	身近にある心理学
7	11月8日	1年生	小方直幸 先生	16歳からの社会学
8	11月15日※	3年生	坂井 聡 先生	障害があるとはどういうことなのか？
9	2月14日	2年生	山本木ノ実先生	教職を知る—中学校生活
	4月19日	1年生	岡田 涼 先生	探究を楽しもう

4月19日の岡田先生の講義は、教育創造コース単独ではなく1年生合同で実施した。

### (2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	5月24日※	3年生	川東芳文 先生、栗田隼人 先生	研究発表会
2	1月31日	2年生	川東芳文 先生	中間発表会
3	2月28日	1年生	川東芳文 先生	研究発表会

この他、春季休業中等に、2年生は各研究室の先生方から指導を受けている。

### (3) 香川大学訪問(2月12日終日)

月・日	学年	担当講師	内容
2月12日	1年生	小方朋子 先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

## 2. 附属坂出学園における活動

学年	訪問先	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	5月31日	授業参観、給食、遊び、清掃指導等
		2	6月14日※	授業参観、給食、遊び等
		3	9月27日※	昼休み体験活動(工作等)
		4	11月15日	フェスタ支援、給食、遊び、清掃指導等
		5	2月7日	授業参観、給食、遊び、清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	5月10日	総合学習CANの支援活動
		2	7月11日※	総合学習CANの支援活動
		3	9月25日※	授業見学
		4	10月1日	総合学習CANの支援活動

	附属坂出幼稚園	1	6月20日	支援活動①
		2	9月30日	支援活動②
		3	12月4日※	支援活動③
	附属特別支援学校	1	12月13日※	訪問・学校説明・授業見学
3年生	附属坂出小学校	1	9月26日※	教育実習生の研究授業の見学

# 教育課題に関するグループ研究発表会を行いました（3年）

5月24日（金）教育創造コースの3年生が、コースの活動の集大成となる「教育課題に関するグループ研究発表会」を行いました。生徒達は昨年7月から3～4名のグループを結成し、各班が教育に関するテーマを設定して、探究活動を行ってきました。探究の過程では、香川大学の先生方をはじめ多くの方々にアドバイスやご指導・ご協力をいただきました。

班	研究テーマ一覧（3年生）
1	小学生の持ち帰る物を減らすために
2	本好きのこどもを増やそう！
3	幼少期のこどもに対する家庭教育 ～日常生活の基礎を作る～
4	教職とAIの共存 ～教育でのAIの使い方と教員の役割～
5	保育者が前向きな気持ちを持って働ける職場とは
6	ICT教育のあり方 ～体育の授業～
7	尊重すべき校則と見直すべき校則 ～デジタル化に伴う校則改善～
8	授業内でのコミュニケーションの取り方 ～座席配置が与える影響～
9	教職を天職に ～中学校教師の魅力～
10	授業中に眠くならないためには



今回は音楽ホールを使用して実施しました。発表者は限られた時間の中で、これまで研究してきた内容を分かりやすく伝えることを心がけ、聴き手であるコース1・2年生も、適宜、質問や感想を述べることができました。

各班6分の発表をし、香川大学教育学部の川東先生から質問と助言をいただき、県教育委員会の栗田先生からは、講評をいただきました。



ご指導いただいた香川大学教育学部の先生方、アンケートやインタビュー等にご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。

これらから新たに、2年生のグループ研究が始まります。現代の教育課題に対して坂出高校教育創造コースらしい視点で取り組んでいきます。今後ともよろしく願いいたします。

## 香川大学教育学部附属坂出小学校で 授業参観・支援活動②(1年)を実施しました

6月14日、香川大学教育学部附属坂出小学校において、教育創造コースの1年生が、「授業参観・支援活動②」を行いました。2年の英語、3年の音楽、4年の体育と図工、6年の理科の授業を参観させていただき、支援活動も行いました。



今回は、授業参観に加え、支援活動もさせていただきました。前回よりも深く児童の皆さんと接する機会をいただきました。教頭先生からのガイダンスを受け、「臨機応変に対応する」、「児童が授業に集中できるように促す」、「児童が困っていたら支援する。児童がすべきことを取り上げてはダメ」を合言葉に取り組みました。今日は本当にありがとうございました。

## 香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動② を実施しました

7月11日、教育創造コースの2年生が、香川大学教育学部附属坂出中学校において、総合学習CAN(Cluster, Action Learning, Narrative Approach)のなかで「支援活動」を行いました。  
中学生の各「クラスター」の活動内容は5月の訪問時よりもかなり深化しており、実験やインタビューをするために教室外で活動しているクラスターも多くありました。中学校の教頭先生からは、「答えを教えるのではなく問いかけてほしい」「どうやったら見えていない課題に気づくか考えてほしい」との言葉を頂き、教育創造コース生は各クラスターの探究の内容を聞き取り、疑問に思ったことを質問したり、アドバイスをしたりしました。

### 【問いかけの例】

「この探究はどうなったらいいの？」…理想の**ゴールを明確にする**。

「(困っていたら：素朴な疑問から)なぜ、これをしたいの？」…研究の**繋がりを意識させる**。

「どうなっていたら〇〇だと言えるの？」…**定義をはっきりさせる**。



前回支援活動に入らせていただいた時に比べ、どのクラスターも研究が進んでいたようです。コース生にとっては、それをさらに深めるような良いアドバイスをすることは、なかなか難しかったようですが、大変面白く貴重な経験でした。附属坂出中学校の皆さん、本当にありがとうございました！

# 香川大学教育学部附属坂出中学校で 授業見学 を実施しました

9月25日、教育創造コースの2年生が、香川大学教育学部附属坂出中学校を訪問し、教育実習生の公開授業を見学しました。

コース生はグループに分かれ、国語、数学、理科、保健体育、美術の授業を見学しました。中学校の先生方が、丁寧に分かりやすく説明をされている様子や、教育実習生の工夫を凝らした授業、中学校の生徒の皆さんが真剣に授業に取り組む様子に、大変感銘を受けました。



今日は見学をする立場でしたが、授業は真剣勝負という雰囲気を感じ、大変緊張しました。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

# 香川大学教育学部附属坂出小学校 にて 「教育実習生の公開授業」を見学しました

9月26日、教育創造コースの3年生が香川大学教育学部附属坂出小学校を訪問し、香川大学教育学部の3回生が行う公開授業を見学しました。



3年生にとって、久しぶりの附属小学校への訪問でした。教育実習生の姿は近い将来の自らの姿です。教育実習生と児童、そしてそれを見つめる指導者の先生方の相互のやり取りが発する気迫に圧倒されながらの見学となりました。

とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

## 香川大学教育学部附属坂出小学校 支援活動③

## 「ロング昼休み」におじゃましました

9月27日、教育創造コースの1年生が、香川大学教育学部附属坂出小学校の「ロング昼休み」の時間のなかで、いろいろな工作やゲームをしていっしょに遊びました。

遊び名 **お宝ゲットだぜ!!** (場所：理科室)

・メッセージ：みんなで作ったすてきな**お宝**をつりまろうよ



遊び名 **ステッカーを作ろう**

・メッセージ：オリジナルステッカーを作ろう! (場所：図工室)



遊び名 **フェルトキーホルダーを作ろう**

・メッセージ：いろいろなキャラクターを楽しく作ろう! (場所：家庭科室)



遊び名 **手作りロケット射的** (場所：メディアルーム)

・メッセージ：オリジナルロケットを作って飛ばそう!



遊び名 **ルーレットで遊ぼう**

・メッセージ：楽しくルーレットで遊ぼう! (場所：音楽室)

遊び名 **かご玉入れ** (場所：体育館)

・メッセージ：昔話 & 夢の世界へ タイムスリップ〜?

遊び名 **オレたちをこえろ!** (場所：体育館)

・メッセージ：たいてかぶってジャンケンポンとボール入れます

遊び名 **鳥獣戯画的当て!!** (場所：体育館)

・メッセージ：ウサギピョンピョン、カエルピョコピョコ、サルツンツン



限られた時間の中で、準備・指示・片付けの全てを完了することはとても大変でした。けれども児童の皆さんが楽しんで参加してくれている姿に、私たちも自信と充実感をもらいました。

香川大学教育学部附属坂出小学校の皆様、貴重な機会を与えてくださり、大変ありがとうございました。

# 香川大学教育学部からの出前講座⑧（3年）

を実施しました

11月15日、香川大学教育学部から坂井聡先生をお招きし、「障害があるとはどういうことなのか」というテーマで、教育創造コースの3年生にご講義をいただきました。

坂井先生からは、様々な問いかけがありました。

香川大学バリアフリー支援室には、年間どれくらいの相談があると思いますか？

障害のある子どもが、別の学校、別の教室で教育を受けることは当たり前ですか？

自立って何でしょう？  
皆さんは自分が自立していると思いますか？

どの表記がいいと思いますか？  
「障害」「障がい」「障碍」「しょうがい」

多様性があるから社会発展してきたんですよ。

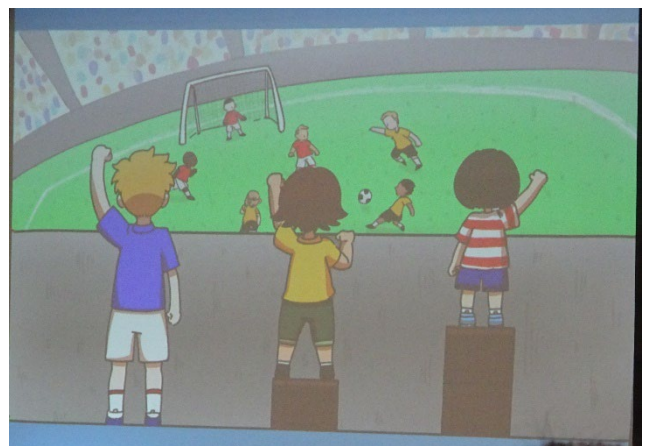


活動の制限や参加の制限を障害ととらえるようになってきています

- ・環境を整えば障害はなくなる
  - ・環境を作るのは自分たち
  - ・みんなが参加できる環境を作る
- 同じ景色を見ることができ学校、学級、社会を作る

障害の有無にかかわらず、すべての人が尊厳ある人として認められ、支えられながら、自分らしく生きることのできる環境を作ることが大切だと感じました。

本日は、ためになり、また、心温まるご講義をしてくださり、本当にありがとうございました。



# 香川大学教育学部附属幼稚園で 支援活動③（2年）を実施しました

12月4日、香川大学教育学部附属幼稚園において、教育創造コースの2年生が副園長先生によるガイダンスの後、園庭などで園児と一緒に活動しました。

## 副園長先生からのガイダンスの概要

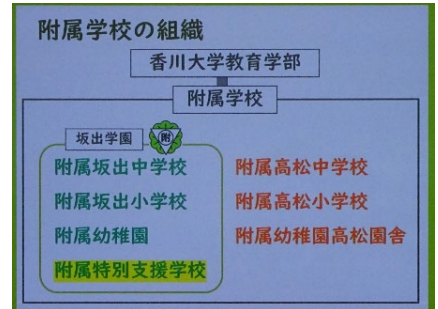
- ① けがへの対応
  - ・慌てず、落ち着いて「大丈夫よ」 ・周りの保育者に伝える
- ② 言葉遣い
  - ・温かい声かけ ・子どものお手本になるような言葉遣いを
- ③ 子どもの成長に合わせた対応を
  - ・「おんぶ」「だっこ」をねだられても、「OOLして遊ぼ」



園児の皆さんとの触れ合いの中で、コース生達も子どもの成長について沢山学ぶことができました。園児さんたちは「遊び」を通して、「想像力」「主体性」「考える力」を大きく伸ばしていました。この経験を通じて、教育という仕事の楽しさと難しさを学ぶことができました。先生方、園児の皆さんありがとうございました。

# 香川大学教育学部附属特別支援学校を 訪問しました

12月13日、教育創造コースの2年生が坂出市内にある香川大学教育学部附属特別支援学校で訪問学習をしました。副校長先生や部主事の先生方から、学校の概要についてご説明いただきました。その後、小学部・中学部・高等部の部主事の先生のご案内で、授業参観をしました。



9月20日の小方朋子教授の講義『特別支援教育について』で小方先生が「環境を見てきてほしい」と言われたことを思い出し、どのような支援の工夫がなされているのかを見学する中で学びました。特別支援学校の先生方、貴重な経験をさせていただき、本当に有難うございました。

## R6 教師のキャリアプランニング支援システム（教員と校長の 1 on 1 対話支援ツール）について

県教育センター

## 1 システムの導入状況（R7. 1月現在）

小中：13市町 高：8校 特：2校 附属：5校

※未導入の市町・学校に対して、次年度はじめに再度導入希望調査を行う。

## 2 アンケート結果まとめ

※対象：県内公立学校（小中高特） R7.1月実施

教師のキャリアプランニング支援システム（教員と校長の 1 on 1 対話支援ツール）の導入の通知があった学校にお聞きします。

ア 支援システムについて、各校における管理職の利用状況について、お答えください。

①～③から1つ選んでください。

	小	中	高	特
① 利用した	16	6	3	1
② 今年度中に利用予定	41	18	5	1
③ 利用していない	63	30	11	5

イ アで①を選んだ学校にお聞きします。管理職はどのように利用しましたか。

①～⑧から当てはまるものを全て選んでください。

	小	中	高	特
① 面談の日程調整	9	3	3	1
② 個々の資質・能力等について自己分析	13	3	2	1
③ 今後伸ばしたい資質能力や、担いたい職務を入力・確認	5	3	2	1
④ 面談で話したいことを入力・確認	5	1	3	1
⑤ 面談の感想や満足度を入力・確認	2	0	1	1
⑥ 面談記録を文字起こし	1	0	0	0
⑦ Plantへのリンクから研修履歴の確認や開催している研修の検索	7	4	1	0
⑧ その他	0	1	0	0

ウ アで①を選んだ学校にお聞きします。利用によりどのような効果がありましたか。

小	日程の調整がしやすくなった。現状の資質能力や伸ばしたい資質能力が双方ともに確認ができた。
小	これまでの面談以上にテーマを絞り込んで面談をすることができ、教員が取り組みたいことや課題を感じていることを明確にすることができた。
小	全体での研修の受講状況の把握や進度について理解できた。
小	自己分析のグラフは、振り返りに有効である。
小	自己のこれから伸ばしていく方向を自覚できた。
小	資質・能力について自己分析できた
小	自己分析した結果がレーダーチャートに表され、面談の中で活用することができた。
小	まだ効果を感じない。
中	日程調整をスムーズに行えた。
中	個々の教職員の（自己評価での）興味・関心を的確につかむことができた。
中	教職員が個人で分析して面談に臨み、面談後は振り返りに活用することができた。
中	個々の教員の研修課題の把握。
高	職員の選択の幅が広がった。
高	手間が省ける。
特	日程調整がスムーズであり、記録が残るため、次回の面接時に以前のことを振り返ることも簡単。また、チャートなどで可視化されるため、自己分析もしやすい。

# 香川大学SDGsアクションプラン推進課題

教育学部主管

資料 1 3



SDGs  
教育プロジェクト  
Kagawa Univ.

# SDGs 教育プロジェクト

## プロジェクトの目的

教育学部教員が核となり、附属学校や全学共通科目等を含む全学展開、また一般市民の方々にも展開・波及するよう、広い意味でのSDGs人材育成のプロジェクト

## プロジェクトの目標

- ▶ 大学院生、学部在校生、附属学校生徒、市民を対象に
- ▶ 啓発・啓蒙イベントとして、シンポジウム、セミナー
- ▶ 教育カリキュラム検討
- ▶ 研究成果を発信するジャーナル・ニュースレター

## 附属学校と学部の共同研究

R6年度は10件の共同研究プロジェクトを展開  
SDGsに関する研究。SDGsに関する教育方法、教育内容、教育実践等について、学部教育・附属学校園の教育研究開発を支援するもや、教育実践研究一般を進めるものに分けて公募。

## SDGs教育とサイエンス



**KSDGs 夢化学21 in Kagawa**  
おもしろワクワクサイエンス展  
夏休みの1日を化学体験で楽しんでもませんか?  
2024年8月4日(日) 12:00~17:00  
8月5日(日) 10:00~15:00  
会場 サポート高松展示場・市民ギャラリー

図：8月4-5日に実施した「KSDGs夢化学21 in Kagawaおもしろワクワクサイエンス展」の企画チラシ。写真の通り参加1000人以上。多くの学生も企画側として参加。

## 日独シンポジウム

10月18日実施。ボン市・高松市・日独協会と連携。持続可能な都市と周辺環境の在り方を交流。

図：企画チラシ。ボン市から副市長をはじめとした都市計画の実務家の参加。高松市・香川大学の研究シードをどう生かすか討論。

**Japan-Germany SDGs Symposium 2024 in Kagawa**  
- Sustainable Cities and Environment -  
Organized by: Kagawa University  
Date: Friday, October 18, 2024  
Time: 4:30 pm - 7:00 pm (JST)  
9:30 am - 12:00 pm (CEST)  
Venue: Multi-purpose Hall, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan  
Format: Hybrid  
Open to the Public

図：今年度の新しいSDGsレシピ。上は農学部水田先生の麦味噌に関するレシピ。下は瀬戸内圏研究センターの中国先生の海の科学研究を伝える活動レシピ。

### 「やってみるSDGsレシピ」

「麦味噌」を食べることによって四国のSDGsに貢献できる!?

「香川の海の現状を知り、伝えることでSDGsに貢献できる!？」

### 背景

世界の沿岸域では、海洋環境の変化や海洋プラスチック

## 全学共通教育「SDGs学入門」の開講

1年生対象のSDGs入門授業。教育学部の教員が中心になり、全学教員のご協力をいただいている。

今年度は11月21日に「人新世におけるSDGs—ガンディー研究の観点から」を開講。

実践的レポート課題「やってみるSDGsレシピ」作成

SDGsを学問する。講義会2024  
人新世におけるSDGs—ガンディー研究の観点から  
日時：2024年11月21日(木) 16:20~17:50  
会場：香川大学準北525教室  
図：企画チラシ。講師は石井一也先生(香川大学法学部)

## 「未来からの留学生」(10月13日開催)でSDGs活動を紹介！ 180名の来訪



香川大学教育学部で実施しているSDGsに関する教育・研究・地域貢献活動を紹介しました。

訪れた多くの子どもたちは学校でもSDGsについて学んでおり、教育学部で行っているSDGsの取り組みにも興味をもってくれました。



## 教育学部SDGs活動紹介

香川大学教育学部はSDGsに関する活動を推進しています。



## 覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協りに当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

#### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長